

## 1 令和元年度 病院事業会計決算概要について

(単位:百万円)

科目	令和元年度	平成30年度	対前年度	令和元年度 最終予算額	対予算額	中期計画 (令和元年度)	対中期計画
事業収益	22,796	22,515	281	23,405	△ 609	23,574	△ 778
医業収益	19,367	18,878	489	19,953	△ 586	20,272	△ 905
医業外収益	3,235	3,278	△ 43	3,258	△ 23	3,074	161
附帯事業収益	194	210	△ 16	194	0	228	△ 34
特別利益	0	149	△ 149	0	0	0	0
うち一般会計負担金	3,879	3,891	△ 12	3,879	0	4,092	△ 213
事業費用	23,742	22,983	759	24,269	△ 527	24,567	△ 825
医業費用	22,348	21,693	655	23,310	△ 962	22,084	264
医業外費用	1,202	1,083	119	765	437	1,250	△ 48
附帯事業費用	192	207	△ 15	194	△ 2	226	△ 34
特別損失	0	0	0	0	0	1,007	△ 1,007
当年度経常損益	△ 946	△ 617	△ 329	△ 864	△ 82	14	△ 960
当年度純利益	△ 946	△ 468	△ 478	△ 864	△ 82	△ 993	47
当年度未処理欠損金	17,597	16,651	946	17,519	78	18,361	△ 764

### ○事業収益は、前年度に比べて281百万円増加の22,796百万円

- ・総合病院における患者単価増による入院収益の増加(82百万円)および外来収益の増加(352百万円)

### ○事業費用は、前年度に比べ759百万円増加の23,742百万円

- ・総合病院における職員数の増等による給与費の増加(468百万円)および外来化学療法件数の増等による材料費の増加(361百万円)

### ○経常損益は946百万円の赤字で前年度に比べて329百万円悪化、純損益は946百万円の赤字で478百万円悪化

- ・経常損益、純損益とも医業費用(給与費、材料費)の増により悪化
- ・純損益は、病院事業全体で「第四次県立病院中期計画」の平成31年度(令和元年度)目標値を47百万円上回る(中期計画では総合病院東館解体に係る特別損失を見込んでいたため)

<病院別内訳>

(単位:百万円)

科 目	総合病院			小児保健医療センター			精神医療センター			経営管理課		対前年度		
	対前年度	対予算	対中期計画	対前年度	対予算	対中期計画	対前年度	対予算	対中期計画	対前年度				
入院患者数(人)	157,015	△ 2,059	△ 1,463	△ 3,293	25,732	1,221	△ 327	△ 2,450	34,897	△ 424	△ 549	△ 4,265		
外来患者数(人)	201,475	△ 66	△ 5,786	△ 9,725	45,133	△ 2,019	△ 419	157	24,198	△ 1,624	61	△ 2,466		
事業収益	17,598	283	△ 574	△ 502	3,095	△ 9	△ 46	△ 118	2,018	13	11	△ 100	85	△ 7
医業収益	15,518	455	△ 568	△ 549	2,459	35	△ 30	△ 121	1,307	5	12	△ 200	83	△ 6
うち入院収益	10,021	82	△ 330	△ 390	1,590	80	△ 19	△ 39	972	14	11	△ 94	0	0
うち外来収益	4,527	352	△ 219	38	736	△ 37	△ 12	△ 25	212	△ 8	3	△ 32	0	0
医業外収益	2,080	△ 36	△ 6	47	442	△ 20	△ 16	37	711	14	△ 1	100	2	△ 1
附帯事業収益	0	0	0	0	194	△ 16	0	△ 34	0	0	0	0	0	0
特別利益	0	△ 135	0	0	0	△ 8	0	0	0	△ 6	0	0	0	0
うち一般会計負担金	2,439	18	0	△ 129	673	△ 18	0	△ 36	684	△ 5	0	△ 13	83	△ 6
事業費用	18,387	710	△ 378	315	3,253	9	△ 120	3	2,017	47	△ 29	△ 77	85	△ 7
医業費用	17,364	603	△ 738	358	2,946	12	△ 166	34	1,954	47	△ 57	△ 73	84	△ 7
うち減価償却費	1,395	△ 448	0	△ 58	164	△ 6	△ 3	△ 13	176	0	0	△ 2	0	0
医業外費用	1,023	107	360	△ 43	115	12	48	3	63	0	28	△ 4	1	0
附帯事業費用	0	0	0	0	192	△ 15	△ 2	△ 34	0	0	0	0	0	0
特別損失	0	0	0	△ 1,007	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当年度経常損益	△ 789	△ 292	△ 196	△ 817	△ 158	△ 10	74	△ 121	1	△ 28	40	△ 23	0	0
当年度純損益	△ 789	△ 427	△ 196	190	△ 158	△ 18	74	△ 121	1	△ 34	40	△ 23	0	0
当年度未処理欠損	17,639	788	191	△ 980	△ 295	158	△ 74	203	253	△ 1	△ 39	14	0	0

## 2 令和元年度 総合病院の状況について

質の高い医療の提供を目指し体制の強化や外来化学療法法の推進を行った結果、入院単価・外来単価とも増加した。しかしながら看護師の増等による給与費、薬品費の増による材料費といった費用の増加が収益の増加を上回り、経常収支は昨年度比で2億9,126万円悪化した。

### 【決算の状況】

(単位：千円)

		H30(A)	R1(B)	B-A	主な増減要因	
診療 収益	入院	1日平均患者(人)	435.8	429.0	△6.8	・平均在院日数+0.0日 (H30:14.5日 ⇒ R1:14.5日) ・紹介率+1.6% (H30:82.1% ⇒ R1:83.7%) ・手術件数+306件 (H30:5,532件 ⇒ R1:5,838件) 外来化学療法件数+1,125件 (H30:4,209件 ⇒ R1:5,334件)
		病床利用率(%)	81.5	80.2	△1.3	
		単価(円)	62,477	63,821	1,344	
		入院収益	9,938,505	10,020,835	82,330	
	外来	1日平均患者(人)	826.0	839.5	13.5	
		単価(円)	20,714	22,468	1,754	
		外来収益	4,174,667	4,526,648	351,981	
計		14,113,172	14,547,483	434,311		
その他		3,066,588	3,050,592	△15,996		
収益計		17,179,760	17,598,075	418,315		
給与費		7,987,200	8,455,466	468,266	看護師の増等	
材料費		4,494,129	4,855,219	361,090	薬品費の増(外来化学療法件数の増)等	
減価償却費		1,842,804	1,395,286	△447,518	既存新館設備の償却終了による減	
その他費用		3,352,986	3,680,726	327,740	医療機器の緊急修繕等による増	
費用計		17,677,119	18,386,697	709,578		
経常収支		△497,359	△788,622	△291,263		

### 【稼働状況】

入院稼働単価	R1平均
急性期(423床)	70,306円
地域包括(52床)	31,544円
回復リハ(40床)	30,262円
緩和ケア(20床)	50,730円

参考 令和元年度末 病院事業会計比較貸借対照表

(単位 千円)

資 産 の 部				負債および資本の部			
科 目	令和元年度	平成 30 年度	比較増減	科 目	令和元年度	平成 30 年度	比較増減
固 定 資 産	31,138,420	31,712,874	△ 574,454	固 定 負 債	26,254,661	26,692,256	△ 437,595
流 動 資 産	7,642,779	8,301,149	△ 658,370	流 動 負 債	5,171,619	4,866,759	304,860
うち現金預金	3,882,124	4,924,360	△ 1,042,236	繰 延 収 益	2,379,751	2,533,661	△ 153,910
				負 債 合 計	33,806,031	34,092,676	△ 286,645
				資 本 金	16,415,091	16,415,091	—
				剰 余 金	△11,439,923	△10,493,744	△ 946,179
				資 本 合 計	4,975,168	5,921,347	△ 946,179
合 計	38,781,199	40,014,023	△ 1,232,824	合 計	38,781,199	40,014,023	△ 1,232,824

令和元年度末の総資産は、建物の減価償却による固定資産の減少等により昨年度比で 12 億 3,282 万円減少した。負債は企業債償還金の減による固定負債の減少等により昨年度比で 2 億 8,665 万円減少した。

また、資本は未処理欠損金の増により剰余金が減少したため、昨年度比で 9 億 4,618 万円減少し 49 億 7,517 万円となった。